

第3回 体の動きを高める運動領域部会

参加者 河野 古川 畠中 岡田 関川 藤原 大川 山本 坪根 藤井 鈴木 小木曾 土屋 新田 小清水 森田

区部発表校 稲田先生 照屋先生

常任理事 佐々木先生 高草木先生 黒澤先生

1 新しい運動例～巧みな動きを高めるための運動～

提案者	運動名	行い方	工夫やおすすめ
畠中	フライングシート	4人1組で大きなシートを使って、バランスを取り合いながらボールを運ぶ	リレー、投げ上げキャッチ、障害物など。似ている用具としてプラスチック段ボールがある。
小木曾	巧みパルクール	5つの運動を経験できる障害物走のようなもの	①バランスフラフープ回し ②チャレンジなわ跳び ③ローリングマット ④巧みパルクール ⑤エアなわ跳び
鈴木	片足ジャンプ	前後の片足ジャンプ	横へのジャンプ、十字でのジャンプ、線を横に複数並べてのジャンプなど。準備が簡単であることが、おすすめ。
藤原	バウンドボールパス	コーンにゴムを付けたバーを挟んで、ボールを自陣にバウンドさせてパスをし合う	相手の陣地にバウンドをさせる、ゴムひもの上下に分かれ2個のボールでパス、相手の「上!」「下!」の声に合わせてパス。
関川	紅白玉ポッチャ	ジャックボールの役割となる「的」を投げ、決められた玉を投げたり転がしたりして、1番近い方が勝ち	用具…フープ、ケンステップ 人数…ペア、グループ 姿勢…座って、利き手と反対の手
坪根	3点キャッチ	人が投げたボールを両手と胸(3点)でキャッチする	姿勢…両手と胸以外、片手2点で 用具…ボールを増やす 人数…複数方向から同時に投げる方向…投げる方向をずらす
山本	ほうきバランス	棒を片手にのせて落とさないようにバランスをとる	のせる場所を変える。歩いたり、走ったり、跳んだりする。棒の長さを変える。
大川	平均台を渡る動き	平均台を渡る	姿勢を変えて移動、動きを合わせる、渡る用具を変える、用具を持つ、両手に別の用具を持つ
	にんじゃキャッチ	ボールを投げ上げて、移動してキャッチする	ボールの種類を変える、真ん中の?のところにハードルなどの障害物を置く、より速くキャッチする
岡田	平均台スラックライン	様々な平均台で作られたコースの中からバランスを高められるコースを選んでゆっくり渡る	柔らかい平均台で、渡りながらフープをくぐる、渡りながらコーンをタッチ、木の平均台で、平均台の上にスポンジを切ったものを置く、2本の平均台の間に跳び箱を置いて

2 新しい運動ディスカッション

○運動選択の方向性

- ・実証授業では、コロナ感染症対策を念頭にした運動選びをする必要がある。
- ・運動例として「かかわり」を重視し過ぎてしまうと、一人一人が学習課題を解決している姿とは、異なってしまう恐れがあるため注意が必要。
- ・協働的な学びとは、友達と一緒に運動することではない。個々の課題を、友達と力を合わせて解決していくものである。
- ・動きの広がりよりも、高まりを実感しやすい運動がよい。
- ・一人で黙々と行う運動だとトレーニングになってしまう。友達とわいわい行っただけで終わりだと、体ほぐしの運動になってしまう。目的がはっきりした運動を選択していきたい。

○よいと思った運動

- ・3点キャッチがよいと思う。実技研修を通して見いだすことで、可能性が見えてきそう。
- ・紅白玉ボッチャが楽しそう。これまで部会で取り組んでこなかった「用具をコントロールしながら投げる」につながりそうな運動。チャレンジする価値がありそう。
- ・平均台の運動を充実させることが可能。今回考えてきた運動と平均台を組み合わせることができる。
- ・巧パルクールがよいと思った。コーディネーションの動きが含まれていて、協働と個別というキーワードで考えると展開しやすそうである。高まりを感じやすそう。
- ・コースがあると実践しやすい。大川さんや岡田さんのものを合わせ、バランスに特化したコースを作成。そこに、山本さんや小木曾さんの案を盛り込むこともできそう。

3 次回について

- ・岡田先生の実証授業に向けた学習指導案検討
→改善プランを岡田先生がアップロードする。それへ各自がコメントをする。
- ・次回部会は、6月1週目の予定。

4 常任理事より（黒澤先生）

緊急事態宣言が再延長されるようで、実施したい実技研や集合部会ができず厳しい。取り上げていきたい運動の候補を自校の子供で実践し、情報共有を図っていければよい。

運動会の時期だが、行事に関しても授業改善の視点で展開されることが望ましい。いつまでも教え込み型の行事指導法ではよくない。授業は少しずつ変わり始めているが、行事の改革も必要だと思っている。